

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670200217		
法人名	株式会社 ウエルネット		
事業所名	洛和グループホーム 西ノ京 2階ユニット		
所在地	京都市中京区西ノ京冷泉町140		
自己評価作成日	令和2年10月8日	評価結果市町村受理日	令和3年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2670200217-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同生活の場である事を念頭に置いて、「その人らしさ」を引き出せるように、極力出来る事はして頂き、ADLの低下予防に向けて、日々ケアに努めております。又、新型コロナウイルスにより、外出が出来ない中でも、ホーム内でも少しでも刺激を受けて頂けるように、レクリエーションを行っております。職員の知識向上の為に、動画にて研修を受け、他職員に伝達しております。地域との関係性がやや希薄な事が課題としてあり、コロナウイルスが収束後には、地域との関わりを深めていければと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは法人理念の基独自の理念を「地域の中で地域と共に寄り添って、その人らしく過ごして頂けるケアを提供します」と掲げ、個々の利用者について知るために全職員が日々の関わりの中で得られた情報を書面に記載した上で会議でまとめ思いの把握に努めています。個々の思いやできる事を把握することで利用者が楽しみを持って暮らせるようなレクリエーションの工夫や家事やプランターの水やりなどをすることでやりがいを持ち自立支援ができるように取り組んでいます。日々職員は意見を言いやすい雰囲気がありリーダーや管理者が聞いておりホーム内で話し合い業務改善に繋がったり、毎年法人による職員満足度アンケートを実施し意見を出す他、ホームとして法人に要望する機会もある等、職員の意見を大切に運営に反映しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り前に、理念を唱和して共有しています。	法人理念の基ホーム独自の理念を作成し、入職時に込められている思い等を説明しており、日々には玄関に掲示したり法人理念を毎朝唱和し意識できるようにしています。その人らしく過ごしてもらえるような支援になるよう会議で話し合ったりアセスメントを行い、介護計画に反映し理念を実践できるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のサロン等に参加していましたが、職員不足等の理由により、参加出来なくなり、地域との繋がりが希薄になっている。コロナウイルスが収束した際には、再び地域交流を行っていく。	自治会に加入し地域行事に参加したり、小学校で行われる運動会の見学、保育園児との交流、フラワーアレンジメントのボランティアの来訪等多くの交流を行っています。コロナ禍においては買い物時に近隣の店の利用を続けていますが、収束後には交流を再開していきたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、グループホームでの取り組みや過ごされ方をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	レクリエーションの内容や、重大事故等の報告を行い、ご意見等があればお伺いしています。	会議は2か月に一回民生委員や地域包括支援センター職員の参加を得て開催し、利用者や職員の状況をはじめ行事や事故、身体拘束委員会の報告を行い、意見交換をしています。新型コロナウイルス感染症流行前の1月まで開催し、現在は書面で報告を行い意見を募っています。	運営推進会議が再開されたときに家族の参加が得られるよう、会議についての説明をわかりやすく行う等の取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所会議に参加し取り組むようにしています。	制度や運営上のわからないことは法人担当者を通して聞き、運営推進会議の議事録は現在は郵送し現状を伝えています。コロナ禍以前は市の事業所会議に出席したり研修案内があれば内容に寄っては参加し、コロナ禍ではアンケートに答えたりマスクや消毒薬の支給を受ける等のやりとりを行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関先に「身体拘束適正化に関する指針」を提示しており、定期的な内部研修にも参加し、他職員に伝達しています。	身体拘束の研修を年に2回行い、2か月毎に適正化委員会を行いホームの現状を確認しており、また行動を制限するような言葉掛けについてのヒヤリハット事例を集め会議で話し合っています。センサーマットの使用を話し合う中でなくしたり、日中出入り口の鍵をかけず外に行きたい様子の利用者にも寄り添う等、拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。	

洛和グループホーム 西ノ京 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に、内部の研修に参加し、レポート提出にて伝達しております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修に参加し、レポート作成し伝達しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には、専門の入居相談員と管理者立会いの下、「重要事項説明書」を読み合わせながらご説明させて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、ご家族様宛に「満足度調査」を行い回収・集計しており、ご報告させて頂いております。	利用者の要望は日々の関わりの中で聞き、食べたい物を聞いたり好みの献立に配慮し、希望から個別レクリエーションに反映しています。家族の意見や要望は意見箱を設置したり、電話や面会の際に聞き、年に1度満足度調査も行っています。調査の結果から質問に答えたり、コロナ禍では面会が難しくなりましたが、希望もあり玄関でビニール越しの面会に対応する等運営に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、各ユニット毎にカンファレンスを開催し、独自の「No1シート」を元にして、ケア等について話し合っております。	日々職員は意見を言いやすい雰囲気がありリーダーや管理者が聞いており、また毎月行うユニット毎の会議の前には気付いた事を書面で出してもらい議題にしています。一年を通して行う行事は其々担当が主体的に企画して実施しています。毎年法人による職員満足度アンケートを実施し意見を出し、ホームとして法人に要望する機会もありシャワーチェアや車いす対応の車の購入等の要望を出しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、「職員満足度アンケート」を行っており、職場の環境改善に取り組んでおります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な内部研修に参加しつつ、独自の「力量評価」を年2回行っており、それを基に必要に応じて話し合いや指導をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内部の研修に参加した際には、他事業所との情報交換や交流が来ています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、相談員と職員とで面談に伺い、ご要望等をお聞きして、アセスメントシートを作成し、入居後、少しでもスムーズな関係性作りが行えるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、相談員がご相談にのっており、契約時にも不安な事や、ご要望をお伺いしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に面談を行い、支援を見極め、他のサービス利用も含めて考慮しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	必要以上の介助は行わないようにしており、コミュニケーションに努め、関係性を築いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日々の様子をお伝えし、必要に応じて電話等でもご相談させて頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の面会はもちろん、その他のご友人等の面会もして頂いており、ご希望があれば一緒に外出もして頂いております。	友人や知人の面会時にはゆっくりつろいで過ごせるよう配慮し、年に一度希望の場所へ個別外出をしており懐かしい場所へ行く方もいます。自宅や墓参りなどの外出はスムーズに出かけられるよう支援しています。コロナ禍では来訪や外出が難しくなり収束後は再開していきたいと考えています。年賀状が届く方がおり、懐かしい話をしたり電話で話す方もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	極力、大勢でレクに参加して頂けるように努め、必要に応じて席替えも臨機応変に行っております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご希望や要望があれば対応させて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に「C-1-2シート」を作成し、ケアプランやケアに反映させております。	入居前に法人の相談員とホームの計画作成担当者が利用者や家族と自宅や病院、施設等で面談を行い、生活歴や趣味嗜好、生活習慣、希望を聞き思いの把握に繋げています。入居後は職員が日々の関わりの中で希望を聞くよう努め、意思疎通が困難な方の思いも家族に聞いたり職員の気付きからカンファレンスで本人本位に話し合うことで把握できるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「入居面接アセスメントシート」等、生活歴等のこれまでの情報をファイルして事務所に保管しており、いつでも閲覧出来るようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察し、お変わりあれば記録に残しており、必要に応じてカンファにて話しあっております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを定期的に行い、ケアプラン更新前には、本人様・ご家族様・往診医・訪問看護に、ご意見や要望をお聞きしております。	本人や家族の意向、アセスメントの基介護計画を作成し、入居後3か月で見直し以降は6か月、1年で見直しています。期間の途中でモニタリングを行い、見直しの際には事前に家族の意向や医師や看護師の意見を聞き、サービス担当者会議を開いています。入院や状況の変化に合わせて随時見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「介護日誌」の記録を残しており、特変時には申し送りを行い、必要に応じてケアプランを変更しております。		

洛和グループホーム 西ノ京 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診医・訪問歯科・訪問看護・マッサージ・訪問カット等の様々な職種の支援を受けております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや、地域の学校との交流が途絶えており、今後の課題である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、往診に来て頂いており、お薬の変更があった際には、ご家族様に報告しており、「受診結果報告書」も作成しております。	かかりつけ医を継続できる事を入居時に説明し、継続し受診する場合や専門医への受診は家族が対応することを基本としています。協力医の往診は月に2回あり、家族の希望に応じて往診日に来てもらったり病院で病状について説明を受けてもらっています。毎週訪問看護師による健康管理を受け、体調不良時等は夜間でも相談できる体制を整えています。また希望に添って訪問歯科やマッサージを受けている方もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護に来て頂いており、特変があれば、相談・指示頂ける環境です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と連絡を図り、状態をお聞きし早期の退院に努めております。又、内容を記録に残しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に指針に沿ってご説明しており、看取りの際には、Dr・看護師・ご家族様・職員で話し合い受け入れる体制である。	入居時に重度化や終末期の対応指針にそってホームで支援できる事等を説明しています。以前には看取り支援をしたことがあり、家族や往診医、訪問看護師、職員の4者で話し合いを重ね、本人や家族の希望に添った支援に努めています。不定期で法人が研修を行っており、今後受講したいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1度、救命救急講習を受け、有事に備えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアル作成し、定期的に消防訓練も行ってあります。	年に6回行う消防訓練の内2回は消防署の立ち合いの下、初期消火や通報、避難誘導を行い、4回は自主訓練として消火器の位置確認やコンセント周囲の掃除などを行っています。地域とは一時避難所として登録したり運営推進会議で訓練の案内をし協力関係を築けるよう働きかけています。3日分の水や食料とカセットコンロなどの備蓄をしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「不適切なケア」のヒヤリハットの提出を促し、より良いケアを目指しております。	毎年行う接遇マナーや虐待防止等の研修、2か月毎に認知症ケアについての勉強会を行い、職員は尊厳を守り個々を尊重した対応について学んでいます。敬語での言葉遣いを基本とし、不適切な対応があれば注意し合っています。また希望があれば入浴介助時等にできる限り同性介助で対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションや様子観察から、本人の思いや希望を出して頂ける様に働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先するのではなく、時には「待つ」ケアを行えるように心掛け支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選ぶ事が出来る方には、選んで頂き、難しい方には、続けて同じ服(パジャマ含む)着る事がないように支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切りや、盛り付け等のお手伝いをして頂き、食器拭きやテーブル拭き等も出来る限りして頂くように支援しております。	昼食は湯せんで温めて提供し、夕食は利用者の希望や旬の食材、季節行事を考慮して献立を立てています。食材を切ったり盛り付けなどの利用者にはできる事に携わってもらい食事を作り、昼食を職員と一緒に食べています。コロナ禍では状況を見ながら利用者に携わってもらうことをやめていましたが、マスクなどの対策をしながら徐々に再開しています。ベランダで育てたナスなどの野菜を使ったり、弁当をとる他、ホットケーキなどのおやつを手作りする等楽しんでもらうよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎日のチェック表にて記載・管理しています。水分は、10時と15時の水分補給、入浴後や外出後には水分補給をして頂いております。		

洛和グループホーム 西ノ京 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員による毎食後の口腔ケアに加え、週1回歯科衛生士による口腔ケア、歯科医師による定期的な診療により、口腔内の清潔維持に努めております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを職員同士で共有し、立位が難しい方でも、2人介助にてトイレ誘導し、支援しております。	排泄チェック表や個人記録から排泄パターンを把握し、仕草や様子を観ながら個々のタイミングでトイレに行けるように支援しています。日々の状況を申し送りやカンファレンスで確認し支援方法や排泄用品の変更等を話し合い、必要に応じて介護計画にもあげ改善し自立に向かうよう支援しています。重度の方も二人介助でトイレに行ったり、夜間はポータブルトイレを使用する方がいる等、個々に合った支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトをお出しし、必要に応じて牛乳を飲んで頂き、なるべく自然に排便して頂ける様に努めております。それでも、排便が難しい方は往診医に相談し、お薬を出して頂いております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回という最低基準にとらわれず、援助しております。又、入浴の拒否がみられた際には、無理強いせず、人や時間・日を変えて対応しております。	入浴は曜日は決めず少なくとも週に2回、主に午後の時間帯に支援し、一人ずつ湯を入れ替え好みの湯温に合わせてゆっくりと会話を楽しみながら入ってもらっています。希望に応じて回数を増やしたり午前入浴にも対応可能です。拒否する利用者には対応する職員を代えたり、日時を変えて支援し無理なく入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温管理を行い、日中、身体に負担が掛かり過ぎないように必要に応じて、臥床して頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報のファイルを各々作成しており、いつでも閲覧確認出来るようにしております。又、お薬の変更があった際には、報告書を作成し、家族様や訪問看護師にお伝えしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の好みや得意な事を把握し、日々の生活でのレクリエーションやお手伝いに活かせるよう支援しております。		

洛和グループホーム 西ノ京 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換を兼ねて、散歩や買物に出掛けるよう支援しております。又、個別外出レクを企画し、家族様から外出要望があった際には、一緒に外出して頂いております。	日々散歩や買い物に出かけたり、初詣や花見などの季節行事、個別支援で希望に添って水族館等に行っていました。コロナ禍で自粛となっています。外気浴やドライブが可能となり、今後状況をみて少しずつ外出していきたいと考えています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持しておられる方はおられないが、本人様が希望されれば、所持して頂ける様支援させていただきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されれば電話して頂いており、家族様から電話があった際には、こちらから「よろしければ話されますか？」と話して頂ける様に支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に作って頂いた物を、季節毎に飾り付けを行っており、フラワーアレンジメントのお花を飾ったりして、少しでも居心地が良いよう過ごして頂ける様に支援しております。	共有空間は季節が感じられるようにすずきや花などを飾ったり利用者と一緒に作成した壁絵を掲示しています。リビングにソファや椅子を置き少人数で寛いで過ごせる場所を作り、安全や利用者同士の関係性を考慮して配置換えをしています。毎日定期的に換気し、利用者と一緒に掃除を行い清潔を保ち快適に過ごせるよう支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必要に応じて席替えをしたり、居室で独りでゆっくりして頂いたりしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みの家具を出来る限り用意して頂いており、必要な物が生じたら相談させていただきます、ご用意させて頂いております。	入居時に使い慣れた物を持って来てもらうよう説明し、タンスや椅子、テレビ等の持参した物を家族と本人が配置し、安全や過ごしやすさを考え相談して変更することもあります。大切にしている仏壇や位牌、趣味の手芸道具や本を持参している方やレクリエーションで作った作品や写真を飾る方もいます。生活習慣によりベッドではなく布団を敷いて休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アセスメントを活かし、又、職員同士による話し合いにて、自立支援に努めています。		